令和元年度 第１回経営協議会議事要旨

日　時　　令和元年６月２４日（月）　１３時３３分～１５時１９分
場　所　　学長室
出席者　（学外委員）井田委員，大平委員，陣内委員，戸上委員，中尾委員，山口委員
　　（学内委員）宮﨑学長，後藤委員，兒玉委員，寺本委員，早瀬委員，山下委員，山﨑委員
欠席者　（学外委員）潮谷委員，古川委員
　　（学内委員）なし
陪席者　　吉田理事，佐々木監事，北村監事，板橋教育学部長，小坂芸術地域デザイン学部長，中村経済学部長，原医学部長，渡理工学部長，小林農学部長，只木評価室長

・　学長から，事務局長の交代により，新たに山﨑英司事務局長が経営協議会委員に就任した旨紹介があった。

・　学長から，平成３０年度第６回経営協議会の議事要旨の確認について依頼があった。

【 議題 】
学長から，評価について，審議１件，報告２件がある旨説明があった。

（１）「平成３０年度自己点検・評価書（案）」及び「平成３０事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）」について【 **審議** 】
只木評価室長から，平成３０年度自己点検・評価書（案）と平成３０事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）との関連，概要及び評定を「Ⅳ」としたものが３件あることについて説明があり，審議の結果，了承された。

（２）国立大学法人佐賀大学の中期目標の提示・中期計画の認可について
【 **報告** 】
企画評価課長から，クリエイティブ・ラーニングセンター及び文化教育学部の削除，先進健康科学研究科及び理工学研究科の設置による変更について中期目標及び中期計画の変更を申請していたところ，３月末に認可の通知があった旨報告があった。

（３）教職大学院認証評価の受審について【 **報告** 】
只木評価室長から，専門職大学院は，大学の認証評価とは別に，５年ごとに認証評価を受けることとなっており，本学では大学院学校教育学研究科（教職大学院）が該当するため，令和元年度に（一財）教員養成評価機構による認証評価を受審すべく，自己評価書を作成した旨報告があった。

学長から，財務について，審議２件，報告１件がある旨説明があった。

（４）平成３０事業年度決算について【 **審議** 】

財務課長から，平成３０事業年度決算における当期総利益は，対前年度２１５百万円増の１，７６４百万円である旨，現金ベースの予算決算上の収支差は２，４３８百万円であるが，目的積立金として申請できるのは，当期総利益の範囲内で現金の裏付けがあるものとされているため，当期総利益である１，７６４百万円を，文部科学省へ申請する旨の説明があった。

また，平成３０事業年度決算の概要について，資産，負債・純資産，経常費用及び経常収益の主な増減要因等の説明があり，審議の結果，了承された。

（５）２０２０年度概算要求事項について【 **審議** 】

財務部長から，２０２０年度概算要求に向けて，機能強化経費（機能強化促進分，共通政策課題分）について，要求事項の選定，並びに「施設整備費補助金」及び「施設費交付事業費」について，要求事項の選定を行うものであり，要求内容等に関しては，文部科学省からの通知を踏まえて対応する必要があることから，要求事業の追加及び要求額等の詳細については，学長に一任とさせていただきたい旨説明があり，次いで，機能強化経費の各事業内容について説明があった。

次いで，環境施設部長から，部局から要求のあった事項に対し，佐賀大学第３期中期目標・中期計画，第４次国立大学法人等施設整備５か年計画，国土強靭化のための３か年緊急対策を踏まえ，２０２０年度概算要求における佐賀大学の基本方針を定め，施設整備費要求事項（案）として，施設整備費補助金については，総合分析実験センター実験棟改修等８件を重点事業とすること，また，施設費交付事業費（営繕事業）については，看護学科棟空調設備改修を要求することとした旨の説明があり，審議の結果，了承された。

（６）余裕資金の運用について【 **報告** 】

財務部長から，平成３０年度資金運用益（結果）の運用益総額，資金運用登録業者及び資金運用益の使途，及び令和元年度の運用益（見込み）について説明があった。

学長から，その他，報告２件がある旨説明があった。

（７）会計監査人の選任について【 **報告** 】

監査室長から，会計監査人選定や文部科学省への候補者名簿提出等の手続きについて説明があり，令和元年６月７日付けで文部科学大臣から，国立大学法人佐賀大学の会計監査人として，引き続き「EY 新日本有限責任監査法人」を選任したことの通知があった旨の報告があった。

（８）経営協議会外部委員からの意見への対応について【 報告 】

学長から，経営協議会における外部委員からの御意見に対する，取組状況・今後の取組予定等を取りまとめたので報告する旨の説明があった。

（９）その他

学長から，現執行部による経営協議会は今回が最後になることに伴い，テーマを決めずに，学外委員のご意見等を伺いたいとの発言があり，その後各委員から発言があった。

（●は学外委員の意見等，〇が学内委員の説明等）

●九州内の他大学の経営状況はどうなっているのか。どういう状態になると統合せざるをえなくなるのか。
〇１８歳人口減が数字に現れてくるようになれば，全ての国立大学が今のサイズで継続することは難しい。一法人複数大学化の検討を進めるよう文科省が言ってきた場合に，特色・強みが何で，どこを残したいかが議論の中心になるはずだが，佐賀大学は特色・強みを打ち出せる状況になっていない。ほかがやっていない融合領域を伸ばせば，何年かで特色・強みとして打ち出すことができる。教員は自分の専門を大事にして，新しいことに手を出さないがそうも言っていられなくなる。統合や法人化の時の様に，一気に押し寄せてくる。
〇もう一つはＣＯＣとして何を残すべきかという観点で各国立大学が一生懸命考えれば，一つの法人を作ることができる。
〇佐賀大学が無くなると、学生と教職員合わせて１万人がいなくなる。大学だけでなく地域にとっても大きな問題で，地域全体で考えていかないといけない。
●昭和４０年代に人口が同規模だった佐賀，奈良，滋賀のうち，奈良及び滋賀は現在１００万人を超える人口を持つようになり，佐賀はポテンシャルを生かせなかった。あの頃やるべきだったことと今やるべきことをしっかりと鳥瞰図をもって見据えていかないと，佐賀に素晴らしい素材があってもうまくいかない。前向きに佐賀の良さを各学部が滲み出して生かす分析・検討が必要ではないか。
●国内市場の縮小に対する施策として，国内要員を継続的に減らして，生産もコア技術だけを残してあとはアウトソーシングして生産性を高めるというように，長期的な視点でやらないとハードランディング（リストラ）になってしまう。大学も１８歳人口の減少が分かっているのだから，今から準備していけばソフトランディングですむ。
〇佐賀大学が特色・強みを残すとすれば，どういう分野に特化していくべきと知事はお考えか。
●アジア圏の人々の動きを取り込んで，留学生や留学を加速化する。あとは有明海をどうしていくのか。どう向き合っていくのか。そういったことを洗い出していく作業も必要ではないか。
●３年後に８０００人収容のアリーナができるので，いろいろなコンベンションをやりたい。

〇これまで佐賀でコンベンションをやりたくても，場所も宿もなくてできなかった。そういう情報はどんどん発信してください。
●大学は，もっと外向けにアピールしないとなかなか中が見えない。月に何件発表するとか先に決めてしまうと前向きにやるようになる。
●学長の危機感が教職員や組合に伝わっているのか疑問。
●県民が佐賀大学の校門をくぐることがない。県民市民にとっては聖域のようになっている。市民講座をコンスタントにやるとか，市民が大学の先生と交流する仕掛けができないか。
●佐賀の人口が増えなかった要因の一つは「工業団地」ではないか。他では全て埋まる前に次が出来るのに，佐賀は全部埋まってから次を造り始める。後手後手に回っている。人口が増えれば大学も活性化する。あと、企業からヒトと金をもらって特殊な講座（例：トヨタ生産方式）を作るという手もある。
●昭和３０～４０年代の佐賀について，農地を工業地に転換できず，農地で生産性を上げるしかなかったことや，都会に若者を送り出してきたことなどを県と大学で一緒に学術的に分析すれば，可能性はいくらでもある。

最後に，学長から４年間の協力について謝意が述べられた。

以　上